

第 27 回米国アンチエイジング医学会（A 4 M）ワールドコンGRESS出席報告

統合医療から先進医療まで、この数年に大きな変革が起きています。2020 年も例外ではなく、この潮流を掴むことで、患者さんにより効果的な治療を提供できます。米国アンチエイジング医学会（American Academy for Anti-Aging Medicine: A 4 M）の第 27 回ワールドコンGRESSでは日本で数年先に起こる実践的な情報が手に入ります。

そこで 2019 年 12 月 13 日より米国ネバダ州ラスベガスのベネチアンホテルで 3 日間に渡り開催された A 4 Mの出席報告を致します。



<写真>米国アンチエイジング医学会の会場となったラスベガスのベネチアンホテル

米国アンチエイジング医学会の創設者はロバート・ゴールドマン氏（写真）とドナルド・クラッツ氏です。世界各国で学会やワークショップを開催、昨年の 2019 年 10 月 26 日～27 日に「A 4 M 国際学会日本会議」が東京で開催された時もゴールドマン会長（写真）ら著名なアンチエイジングの専門家が来日、日本にいながらにして米国の最新アンチエイジング医学を学ぶことができました。



<写真> A 4 M創設者のロバート・ゴールドマン会長（右）

■学会のスローガンは「医学を再定義する！」

さて、今回の A 4 Mには世界各国から 5000 人以上の医師らが出席、300 以上の企業ブースの展示がありました。学会プログラムは教育講演とスポンサー企業主催の講演で、一般の医学会のような口演やポスターセッションはありません。また、全ての分野を網羅するのではなく、ホットなトピックスやこれからのトレンドにフォーカスをあてた講演が中心で、いずれも臨床現場に直結する内容です。

注目は挑戦的な学会のスローガン「医学を再定義する（Defining Medicine）」です。これまで続いてきた医学の延長線ではなく、全く違う視点から医学を構築しようという実にアメリカ的なスロ

ーガンです。しかし、学会スローガンが言葉だけの日本とは全く違うことが、実際に学会の講演を聴き、各社の展示を見て思い知らされます。

■注目される幹細胞とエクソゾーム

私の学会出席の目的は、これからの米国アンチエイジング医学会の動向を知ることです。私は始めに学会前日に行われた「再生医療」の1日プレワークショップに出席しました。このセッションには点滴療法研究会の海外ボードメンバーで、再生医療のフロントランナーであるニール・リオルダン博士（写真）も講演をされていました。



<写真>ニール・リオルダン博士と筆者

リオルダン博士は多発性硬化症と自閉症に対する臍帯血幹細胞治療の素晴らしい臨床試験結果を発表していました。今後は2型糖尿病などにも臨床試験を予定しています。リオルダン博士はリオルダン・テクノロジー社を設立し、そのグループの傘下にパナマの幹細胞治療クリニック、ダラスとカリフォルニアに幹細胞療法研究所、そしてアイダンプロダクツ社ではリオルダン博士の開発したサプリメントを販売しています。今回、リオルダン博士と私の共同開発したサプリメントを2020年に日本で発売するための打ち合わせもありました。

今回の学会を通じて幹細胞や幹細胞から分泌されるエクソゾームの進展に驚きました。特にエクソゾームは様々な疾患に幹細胞療法と同等の治療効果を期待できるということで、研究者や企業が激しく競争をしています。実際にエクソゾームを大量に含有した培養液を医師向けに販売している会社もあります。そしてエクソゾームは疾患別に特異的に効果のある次世代エクソゾームの商品化も近いという印象でした。幹細胞やエクソゾームなどの再生医療分野で米国は10年以上も先を進んでいます。

■CBDオイル

医療用大麻の成分であるCBDオイルの発表も多数ありました。昨年はCBDオイルと日本では禁止されているTHC成分との併用効果が多かったのですが、今年はCBD成分が中心でした。米国におけるCBDオイルの使用目的は「痛み」「不安」「不眠」が最も多く、「関節炎」「ストレス」「偏頭痛」がそれに続きます。

特に不眠については入眠までの時間が平均 60 分から 20 分に短縮、夜間覚醒が 4.3 回から 1.4 回と少なくなります。がん治療においては化学療法の副作用である吐き気や嘔吐の軽減、食欲不振や末梢神経症状の改善効果があります。昨年まではCBDオイルは 100-300mg の大量投与でなければという風潮がありましたが、25～50mg でも十分に効果を期待できるとの発表がありました。

その他、数ある中で下記のトピックスが興味を引きました。

- (1) 認知症・アルツハイマー病の治療
- (2) ペプチド療法
- (3) NAD+療法
- (4) ファスティング
- (5) ブレインヘルス
- (6) 男性EDの治療
- (7) がんの予防

なお、展示会場では学会公認のスタンプラリーが行われ、最終日に抽選があります。特賞はなんと日本車のレクサスでした（写真）。



<写真>スタンプラリーの賞品として展示会場に飾られたレクサス

■日本からの参加者との交流

恒例となった日本人出席者による懇親会は、ベラージオホテル内にあるステーキハウス「CUT」で行われました（写真）。ボードメンバーの松山淳先生、上符正志先生、森永宏喜先生を始め、出席された殆どの方が点滴療法研究会の会員ならびに会員企業の方でした。時間が経つのを忘れて夜遅くまで楽しく歓談をしました。



＜写真＞日本人出席者による懇親

■おわりに

2019年の米国アンチエイジング医学会に出席し、新しい情報に心が躍りました。一方、この医学の進歩と日米の格差に愕然とします。最近では日本以外のアジア諸国も日本の先を走り始めています。ここで得られた情報をいかに日本の医師らに伝えていくかが私たち点滴療法研究会の大事な役割であると考えました。

点滴療法研究会 会長

柳澤厚生